

岩手農大同窓会会報

第23号

平成28年
3月3日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢14 TEL 0197-43-2211



減反政策の終わりに思うこと

岩手県立農業大学校同窓会

会長 及川 誠

農大同窓生の皆さんは、地域農業に係わりながら、ご健勝にてご活躍の事とお喜び申し上げます。本会は、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することを目的として活動を展開しているところでありますが、各支部とも機会を見つけて交流親睦を図りたいものです。

最近の農業界の変革は急激大胆で、老いた農業者にはあまりの急変で、ついて行くのに息切れがするようであります。TPPの大筋合意、農業委員の市町村長選任制、農地中間管理機構、多面的機能支払交付金事業、集落営農・認定農業者への農地集積など、まさに農業改革の単語が、静かな農村を飛び交っております。これは、50年近く続いた「米の減反政策」が、平成30年3月で終わりとする前兆でありましょうか。

しかしながら、先祖代々の水田を背負った農家の後継者は、たとえ採算が合おうが合うまいが、作付け継続しようとする、それが生きがだから仕方がない。小さな農家ほど、毎日四季折々の植物にかこまれ、農作業することが心地よく、いま話題の植物療法（フィトセラピー）の効果により、少々の病も忘れて長生きするのであります。

一方、農地の貸し借りの仲人役の農地中間管理機構が発表された当時は、全農地を貸さなくてはならず、所有農機具はほとんど処分しなくてはなりませんでした。最近では、「経営転換」と言って水田一枚・二枚残し、産直野菜とか市場出荷野菜を作るのもよし、果樹を作付けしてもよし、1反歩に飯米用の水稲作付けもよし(1反歩以下に限る)、農業機械も処分しなくてもよくなりました。貸し付け期間は10年間。

昨年の9月、農業委員会制度が大きく改正され、ますます集落営農や認定農業者に農地集積を進める環境が整備されました。農業委員は半分位に減少し、選出方法も公選制から市町村長の選任制に変更されました。新たに現場活動を中心に農地移動を手助けする、農地利用最適化推進委員が、おおよそ大字単位に一人新設されました。今回の農業委員会等の法改正で、今年該当するのは北上市、久慈市、二戸市、釜石市、西和賀町、軽米町、山田町の7市町です。来年以降、任期満了を迎える農業委員会が随時新体制に移行されます。

二年後の減反制度の終わりに向けて、農村の大改革が進みます。稲作農業の大手術の傷口が、あちこち痛むのかも知れませんが……。



同窓会報に寄せて ～ 農大の近況 ～



岩手県立農業大学校
校長 下 村 功

同窓会員の皆様におかれては、ご健勝で、ご活躍のことと思います。また、常日頃から本校の教育活動に様々なご協力を頂いておりますことに対し、改めて感謝申し上げます。

今冬の農大キャンパスは珍しく積雪が少なく、2年生47名、1年生58名の学生が毎日元気に勉学に励んでいます。2年生は3月8日の卒業式に向けて、最後の卒論執筆に精力的に取り組んでいますし、1年生も来年度の卒業研究の計画作成にエンジンがかかってきたようです。

2年生の進路についても、昨年末までに41名の学生が確定し、自家就農や農業法人への雇用就農、あるいは農業団体や農業関連企業への就職として、28名が地域農業の担い手やサポーターとして巣立つこととなりました。他に農業研究機関の技能職や食品加工、食品流通、花店、農業資材も扱うホームセンターなどへの就職と、卒業生のほとんどが本校で学んだ農業の知識、技術を生かした職業に進みます。

学校としては、学生たちが地域農業や地域活性化の担い手としての人生を歩んでくれることは大きな喜びであるとともに、地域で活躍できる学生を育成することの責務を改めて感じております。同窓会員の皆様には、本校での教育活動へのご協力と併せて、地域社会に飛び込んでいく後輩への温かいご指導を頂きますようお願いいたします。

さて、今年度の学校行事では、ホスト校として

大会を運営した東日本農業大学校等親善球技大会や多くの来場者を迎えた農大祭、地域に定着してきた農大産直、高校生に学生自身の言葉で話しかけた緑の学園、技能五輪フラワー装飾部門での取組賞の受賞など、学生の積極的な取り組みが印象的でした。

老朽化が進んでいる教育施設の中では、関係各位のご理解とご支援により、体育館の新築と食堂、女子寮の改修工事が進んでおり、新体育館は平成28年度入学式でお披露目する予定です。

キャンパスの景観にも変化がありました。松くい虫の被害によって、止む無く、本館前の松の大木を始め道路沿いや農場の松の木の伐採を進めました。一方で、平成25年度に金ヶ崎町から寄贈された桜の若木は順調に育ってきています。

今後、一層のグローバル化が進展する中で、幅広い見識を持ちながら新たな発想と工夫で地域農業をけん引できる若い力が求められている時代にあって、キャンパスの景色が変わって行っても、本校の教育理念と役割は変わることなく、なお一層重要度が増していくものと考えています。

終わりに、同窓会員の皆様のご多幸をお祈りするとともに、多くの先輩諸兄が学ばれた六原の地で、農業を志して勉学に励む学生たちと岩手農大の教育活動に更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、岩手農大の近況とさせていただきます。

— 新たな旅立ちにあたり —

今春卒業し、同窓生の仲間入りする学生からの寄稿



▶ 非農家から農業者へ

農産経営科2年 小原 俊介

私の実家は非農家で、私自身も普通高校出身と農業に関して全くの無知でした。高校時代は、4年制大学に進学したいと考えていましたが夢は叶わず、1浪して農業大学校に進学しました。農大では4年制大学では出来ない様々なことを学ぶことが出来ました。

4月からは、農事組合法人水分農産に就職します。農大で学んだことを生かして地域で信頼される農業者になれるように頑張りたいです。



▶ 農家の後方支援

農産経営科2年 田村 健太

私は、(株)鈴木農機から内定を頂き、4月から働くことになりました。農業機械は今の農業にとって、なくてはならないものです。農業大学校で取得した資格をフルに生かして、地元農家さんの信頼を得ながら後方支援を出来るよう、技術向上に努めたいと思います。

一日も早く地元の農家さんから信頼される整備士となれるように精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



▶ 今後の将来について

野菜経営科2年 鎌田 有輝也

私の実家は、アスパラガスを栽培しています。農業大学校には、野菜栽培の知識を身につけ実家を継ぐために入学しました。卒業後は実家の農業を手伝いながら仕事をします。農業資材の販売業者に就職が決まり、そこでも農業の勉強をしながら働いていこうと思っています。農大で学んだ事を実家や就職先などで生かし、新たな知識を身につけ実家の農業を発展させて行きたいです。



▶ 社会人へ一歩前進

野菜経営科2年 菊地 唯

私は農業大学校の野菜経営科で様々なことを学びました。卒業後、小売業者に就職します。就職先では接客が主となります。それでも今まで学んできた中で生かせることはたくさんあります。しかし、まだまだ自分に足りないものがあるので、新社会人として学びながら精一杯自分に出ることをやっていきたいと思っています。お客様のために、どんな時も「笑顔」を忘れず日々努力していきたいです。



▶ 今後の歩み

果樹経営科2年 佐藤 太亮

私は農業大学校を卒業後、(株)佐藤政行種苗で働くことが決まっています。この学校に入学し、果樹に関する知識を学び、無事農業関係の仕事に就くことができました。仕事先では日々どのようなことを学べるか、楽しみです。将来は、自分で農業法人を立ち上げたいと思っています。様々なことを学んで、夢の実現のための糧としたいです。



▶ 農大で学んだ事を生かして

果樹経営科2年 佐藤 拓馬

私は農業大学校で、果樹について2年間学びました。農業大学校での授業や実習は、非農家で農業高校出身でもない私にとって、学ぶことが多く、様々な知識と技術を身に付けることができました。卒業後は、この2年間で得た知識と技術を生かして、茨城県つくば市の果樹研究所で技術専門職員として働きます。少しでも日本の農業の発展に貢献できるように、これからも農業について学び続けていきたいです。



▶ 目標

花き経営科2年 菊池 洸太

私は、高校時代、主に造園を学習し、農業大学校では花き経営科を希望し入学しました。花の専門的な講義や専攻実習では、実際に学ぶことも多かったです。

私は、横浜市の櫻井造園土木株式会社に内定をいただきました。就職するにあたり私には目標があります。それは、今まで学んできたことを生かし、仲間から信頼される社員になる事です。仕事をしながら資格を取り、上を目指し会社の発展に役立てられるよう頑張っていきます。



▶ 就職に当たっての決意

花き経営科2年 藤原 優介

農業大学校卒業後、私は4月から岩手缶詰(株)で働くことになりました。農業に興味を持ちこの学校に入学し、花について学んでいましたが、花とは関係のない食品関係の仕事に就きました。

学校で学んだ農業の知識はあまり仕事に使わないかもしれませんが、学生生活の中で経験した様々なことを自分の力にしていきながら、岩手缶詰(株)で一生懸命働き、会社に役立つ人になれるように努力していきたいです。

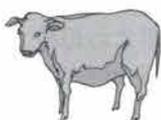


▶ 決意!!

酪農経営科2年 川村 勇貴

私は、卒業後、(一社)家畜改良事業団盛岡種雄牛センターに就職します。最初は契約社員なので、まずは正社員になれるように頑張りたいと思います。

盛岡種雄牛センターでは、牛の精液を採取して全国の畜産農家に販売しています。そのためには牛を健康に管理しなければならぬため、難しいこともあると思いますが一生懸命やっていきたいです。農大で取得した、家畜人工授精師や2級認定牛削蹄師などの資格を生かせる仕事なので、しっかり頑張りたいです。



▶ 就職にあたって

酪農経営科2年 畠山 俊介

私は、4月から北日本JA畜産(株)藤沢牧場で働くことになりました。私は、肉牛の飼養管理を学び、人工授精の腕を磨き、人工授精師として地元の畜産業の発展に尽力していきたいと思っています。藤沢牧場は大規模な牧場です。大変に思うこともあると思いますが、最後まで諦めず何事にも挑戦していきたいと思っています。

さらに、実家へ帰った際には父の後を継ぎながら、藤沢牧場で学んだ事を生かし、自分でも和牛繁殖に取り組んでいきたいと思っています。これからもよろしくお願いたします。



▶ 就職してからの目標

肉畜経営科2年 植村 勇輝

私は、卒業後に地元の岩泉に戻り、就職先である岩泉農業振興公社で地元へ貢献できるように一生懸命仕事をしたいと思っています。農大在学中に削蹄の2級認定資格を取得したので、勤務先の牧場では削蹄に力を入れて取り組みたいと考えています。そして、地元の農業を活性化させられるような、行動力や能力を身に付けることが私の目標です。



▶ 農大で学んだことを生かして

肉畜経営科2年 吉野 みすず

私は東京の非農家の出身ですが、肉畜経営科に入学し学びました。農大では初めて経験することが多く、いろいろなスキルを身に付けることができました。農大卒業後はJ Aいわて花巻で勤務させていただくことになりましたので、農大で学んだことや取得した家畜人工授精師の資格を生かしつつ、日々精進して一日でも早く農家の方々から信頼されるJ A職員になれるように努めていきたいです。

◆ 支部便り ◆

紫波支部

紫波支部の現状と活動内容について

支部長 鎌田 征郎

◆ 組織の現状

紫波支部の会員は名簿上600名余りとなっていますが、総会や研修会等の参加者をみると、ほぼ20名で固定化の傾向がすすんでいます。

活動組織は、会員数が多いこともあって、紫波分会と矢巾分会があり、基本的には独自に活動しています。

分会の役員が、概ね紫波支部の役員に選出されており、支部長は紫波、矢巾で数年ごとに交代で務めています。事務局の選出も近年は支部長の分会から必然的に選ばれています。

役員はどちらかと言えば、定年退職した年代が多かったのですが、現役で働いている若い人を選出して、若返りを徐々に図っています。

支部総会は2カ年に1回となっており、28年は26、27年度決算と28、29年度予算などが討議される予定となっています。ただし、各分会の総会は毎年、開催されています。

◆ 活動内容

各分会の活動内容をみると、紫波分会は新会員の勧誘や在校生との交流会など計画していますが、現時点では計画倒れの様相を呈してきています。

矢巾分会は先進地事例研修や会員名簿更新などに重点をおいて活動しており、紫波分会よりは活発に活動していると思っています。

支部の活動は、各分会活動内容と重ならないように工夫しながら行っています。具体例として、野村胡堂のあらえびす記念館長の野村晴一氏（農大OB）を招いての講演や農大OBの仕事上からみた農業情勢の講演などを行ってきました。

しかし、各分会とも活動内容や参加者の固定化が進んでいることから研修会などは合同で行ってはどうかとの意見も多くなってきています。

支部、分会とも役員会、総会、研修会の後は、ほぼ懇親会は欠かさず行って交流を深めています。最近の活動として、紫波分会、矢巾分会の役員交流会（新年会）を28年1月に開催し、各分会の活動状況やこれからの活動について歓談しながら意見交換をしました。



紫波・矢巾分会の役員交流会

奥州支部

奥州支部の近況

支部長 千葉 幸一

奥州支部の近況ですが、母校である農大が地元にあることや、会員が多い支部であることを組織の特徴として支部運営に努力をしているところですが、なかなか改善されないのが現状であります。



私が支部長に就任し5年を経過しようとしておりま

すが、掲げた課題は第一に会員相互の親睦を深めること。第二に母校との交流を密にすることでした。

第一の課題に対しては、毎年度の総会の開催やグループごとの交流会等を実施しておりますが、現役の若い会員との親睦が図られたとは言えない状況であります。行事開催の際は、電話かけや直接の誘いなどを行っておりますが、業務優先で断られるのが現状です。そんな中、現役の役員が農業団体の幹部に就任して役員を辞めざるを得ないことなどもあり、ことの難しさを実感しております。

第二の母校との交流につきましては、総会へ校長と同窓会担当者のお席をお願いし、学生の活動や卒業後の進路の状況等の情報交換を行っております。そんな

中、支部内への就農や農業団体への就職者への激励を依頼されますが、本人たちに大きな期待を寄せるとともに、先輩としていくらかでも役立ちたいと同時に嬉しく思います。

農大祭やシンポジウムへの参加もしておりますが、

気仙支部

輝け期待の星

支部長 林田 勲

気仙支部から期待の星、伊藤諒さんを紹介します。

伊藤さんは現在27歳。農業大学校を平成19年に卒業、翌20年からJAおおふなどに勤務、営農経済部営農振興課で営農指導員として働いております。

職場では在校時代専攻した「野菜経営」の知識を生かし、タマネギ、小枝柿、水稲、イチゴなどを担当しています。中でも大船渡市の特産、小枝柿の商品性の向上と生産拡大に力を注いでいます。小枝柿とは、大船渡地方在来の種なし柿で、ほどよい甘さともちもちとした食感、艶甲色に仕上がる品質の高い干し柿は贈答品として生産が追いつかないくらいの人気商品です。JAでは東日本大震災で流出した柿加工施設を平成26年、新たに高台に再建し、最新の低酸素除湿乾燥機を導入して高品質の干し柿「気仙小枝柿」を商品化しました。「気仙小枝柿」はJAグループ6次産業化商品コンテストに於い

て優秀賞を受賞した逸品です。伊藤さんは、そのプロジェクトリーダーとして開発に当たりました。

タマネギについては、これまでの出荷方法を改め10kgネットに切り替えるなど持ち前のアイデアで産地の維持に努めています。また管内の農業法人サン・ファームに導入を働きかけ、今年から大規模圃場での試作に取り組んでおります。自動定植機や収穫機を使った大規模団地づくりが夢とのことです。

地域にあっては、義勇愛郷の精神で消防団員として地域防災に取り組んでいます。郷土芸能「三神楽」の踊り手として伝統芸能の継承にも努めておりますし野球やウィンタースポーツが大好きな好青年です。昨年4月には結婚し、第一子にも恵まれたそうです。ちなみに奥様は農大校の2年後輩とのことです。職場にあっては率先垂範、明朗闊達な人柄で近い将来、JAおおふなどの営農指導事業の中核を担う人材と思っています。

職場や地域でのますますの活躍を期待しております。



伊藤 諒さん

岩手支部

八幡平花卉生産部会天皇杯受賞

支部長 田村 忠

岩手支部は、八幡平市、岩手町、葛巻町で構成している支部です。これといった活動は行っていないのが現状です。組織の立て直しには、同窓会事務局の協力を得ながら努力してまいりたいと思います。



今回、平成27年度農林水産祭で、新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会（代表 高村敏彦）が天皇杯を受賞しましたので、花卉生産部会の活動を紹介します。同部会には農大同窓生も十数名活躍しております。

リンドウ栽培の始まりは、安代地区において昭和47年に水田転換作目として導入され、若手生産者の皆さんが栽培方法の確立、産地育成、販売対策などに組織的に取り組み、安代町農協花卉生産部会を組織し、色々な変遷を経て平成24年2月に新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会を設立し、今日に至っております。

部会では昭和61年から品種開発を始め、地域オリ

ジナル品種第1号として「安代の秋」を育成し、平成4年からは安代町花き開発センターに新品種の開発を引き継ぎ、オリジナル品種を活用した産地化が進められました。

今では切り花30品種、鉢物9品種が実用化し、昨年からは濃い赤色の「恋紅」の出荷が始まっております。また安代リンドウを海外で栽培出荷する取組みも進められており、ニュージーランド、チリの両国と周年出荷体制の構築、品種の共同開発も進められており、両国生産者が相互訪問し定期的に情報交換を行い、海外での安代リンドウのブランド化も進められております。

現在、安代リンドウは全国のリンドウ栽培面積の約4分の1、110ha、出荷数量の約3割を占めており、平成17年度以降10年間連続して10億円以上の販売を達成し全国一の産地になっております。

今回の天皇杯の受賞により、部会の目標である15億円販売達成に向けてさらなる発展を祈念します。



授賞式（明治神宮会館にて）

技能五輪全国大会 フラワー装飾部門で敢闘賞受賞!

平成27年12月4日(金)から7日(月)まで、千葉県で開催された第53回技能五輪の「フラワー装飾」の部に本県代表として出場した花き経営科2年の葛巻麻梨奈さんが敢闘賞に入賞しました。全国からは、生花店従業員や花き関係の専門学校生などフラワー装飾を専門とする強豪が50名も参加する中での入賞はまさに快挙といえます。



本校の花き経営科の学生は「フラワーデザイン」を必修科目としており、レベルも高く、フラワー装飾技能証に合格した学生は卒業後に学科試験を受験してフラワー装飾技能士2級の資格を取得しています。



東日本農業大学校等 親善球技大会を開催

平成27年5月28日(木)から29日(金)まで、本県奥州市の胆沢球場、胆沢総合体育館等を主会場に、青森、宮城、山形、福島、岩手の5県の農業大学校等の学生166名が集まって、親善球技大会を開催しました。

男子は軟式野球で2連覇をかけて決勝戦に臨みましたが、4対5で惜敗し準優勝となりました。女子はバレーボール競技で2勝2敗と善戦して3位となりました。大会初日の交流会ではチームの



紹介やゲーム等を行い、若者同士のネットワークを広げる貴重な機会となりました。

平成27年度岩手県立農業大学校同窓会事業計画 (抜粋)

平成27年4月21日(火)に農業大学校本館2階会議室で開催された総会で決定した事業計画の概要は次の通りです。

平成27年度事業計画

本会の目的達成のため、支部活動の促進と会報の発行等により組織活動の強化を図ると共に、農業大学校の教育目標の達成を支援する事業を次のとおり実施することとしております。

- (1) 支部活動の促進 (支部活動への助成)
- (2) 同窓会会員台帳の整備
- (3) 同窓会報の発行：平成28年3月上旬 1,000部
- (4) 農業大学校卒業生 (直近5年間) 交流への支援
- (5) 農業大学校事業支援

- ア 農大祭の支援：平成27年10月31日(土)～11月1日(日)
- イ 農業創造シンポジウムへの支援：平成27年11月13日(金)
- ウ 本科2年生の海外研修支援
平成27年8月31日(月)～9月7日(月) アメリカ合衆国カリフォルニア州
- エ 「緑の学園」(オープンキャンパス)事業支援

- 第1期：平成27年7月30日(木)、第2期平成27年8月7日(金)
- (6) 農業大学校同窓会全国連盟及び東日本農業大学校同窓会連

盟への参加

- ア 全国連盟総会 平成27年7月15日(水) 東京都
- イ 東日本連盟総会 平成27年6月11日(木)～12日(金) 青森県

(7) その他

- ア 平成27年度入学式 平成27年4月9日(木)
- イ 平成27年度卒業式 平成28年3月8日(火)

同窓会役員名簿 (平成27年度～28年度)

役職	氏名	支部	役職	氏名	支部
会長	及川 誠	北上	理事	槻山 隆	一関
副会長	高崎 覚志	二戸	理事	石関 啓志	遠野
副会長	林田 勲	気仙	理事	菊地 政男	宮古
理事	竹鼻 邦夫	盛岡	理事	岩城 明	久慈
理事	田村 忠	岩手	監事	千葉 欣哉	北上
理事	鎌田 征郎	紫波	監事	及川久仁江	奥州
理事	藤原 勝栄	花巻	事務局	高橋 栄蔵	奥州
理事	千葉 幸一	奥州			

平成28年3月卒業生の進路について (平成28年2月末現在)

今年度の卒業生は、本科47名ですが、進路の内訳は自家就農4名、研修後就農2名、農業法人11名、農業団体4名、農業関連企業7名、進学4名、公務員等3名、その他企業10名となっております。

主な進路先は、次のとおりです。

- 就 農：盛岡市、宮城県白石市、秋田県横手市、山形県鶴岡市
- 農業法人：水分農産、西部開発農産、ベルグアース、イオンアグリ創造、フリーデン、北日本JA畜産等
- 農業団体：JA岩手ふるさと、JA新しいわて、JAいわて花巻
- 農業関連企業：いなほ化工、くみあい肥料、鈴木農機、岩手農蚕、佐藤政行種苗等
- 進 学：静岡大学、酪農学園大学、本校研究科
- 公務員等：県職員臨時、農業・食品産業技術総合研究機構

